

研修Ⅰ 三豊・観音寺

― 読み方のコツ、話し合い方のコツを核として ―

「どうぶつのひみつを みんなでさぐろう ～『ビーバーの大工事』～」（２年）

司会者 三・桑山小学校教諭

提案者 観・観音寺南小学校教諭

指導者 観・観音寺東小学校教頭

1 提案の概要

(1) 主張点の説明

- ① 育てたい「読むこと」の能力（説明的な文章）を身に付けさせるために必要な知識・技能を明確にし、習得、活用できるような指導、支援を工夫する。
 - ・ 学年の系統性を考えた具体的で多様な「読み方のコツ」の提示
 - ・ 子ども自身が伸びを実感しながら課題を持つことができるような評価方法の工夫
- ② 育てたい「話すこと・聞くこと」の能力を身に付けさせるために必要な知識・技能を明確にし、習得、活用できるような指導、支援を工夫する。
 - ・ 学年の系統性を考えた具体的で多様な「話し合うときのコツ」の提示
 - ・ 交流場面での学習形態の工夫
 - ・ 子ども自身が伸びを実感しながら課題を持つことができるような評価方法の工夫
- ③ 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育てるための言語活動の場の設定。
 - ・ どのような力（思考力・表現力）を付けることができるか教材としての価値の研究
 - ・ 相手や目的・場面の状況に応じた単元の構成、導入の工夫

(2) 実践発表

- ① 子どもと共に作り上げる読み方のコツの作成とコツを活用できる場の設定
- ② 子どもが勉強の仕方のコツを意識して伸びを実感できる自己評価の工夫
- ③ 大事なことを落とさないようにして集中して聞き、話題にそって話し合う能力を育てるための読み方のコツの提示
- ④ 「クイズ作り」の言語活動を通して、思考力（比較・関係付け・具体化）・表現力を育成する。そのために、「はてなを作るコツ」や「比べるコツ・つなぐコツくわしくするコツ」の提示。…… クイズ作りの演習

2 成果

- ・ 児童と共に説明文の読み方のコツを作ることで、コツを活用できる場を児童自身が意識することができた。
- ・ 「説明文の読み方チェックカード」を使って、どのような読み方ができたかを自己評価する場を設けた。そのことにより、使える読書を広げようとする主体的な読みにつながった。また、教師も児童の読み方の傾向が把握でき、次時の指導や支援に生かすことができた。

3 課題

- ・ 単元のどこで、どのように思考力・表現力を付けていくのか、単元を通して１時間１時間付けていく力を明確に持つ必要がある。
- ・ 習得、活用した基礎的・基本的な知識及び技能が実の場でも生かせるように、他教科との関連を意図的に構成する。

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、活用する学習の構築

～読み方のコツ、話し合い方のコツを核として～

「どうぶつのひみつを みんなでさぐろう ～『ビーバーの大工事』～」(2年)

主張点

- 1 教師が子どもたちに育てたい「読むこと」の能力(説明的な文章)を身に付けさせるために必要な知識及び技能を明確にし、習得、活用できるような指導、支援を工夫する。
 - ① 学年の系統性を考えた、具体的で多様な、説明的な文章の「読み方のコツ」を提示する。
 - ② 子ども自身が知識・技能を意識し、伸びを実感しながら課題を持つことができるような評価方法を工夫する。
- 2 教師が子どもたちに育てたい「話すこと・聞くこと」の能力を身に付けさせるために必要な知識及び技能を明確にし、習得、活用できるように、指導、支援を工夫する。
 - ① 学年の系統性を考えた具体的で多様な「話し合うときのコツ」を提示する。
 - ② 交流(意見を出し合い、話し合う)場面での学習形態(ペア、グループ、全体)を工夫する。
 - ③ 子ども自身が知識・技能を意識し、伸びを実感しながら課題を持つことができるような評価方法を工夫する。
- 3 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育てるための言語活動の場を設定する。
 - ① どのような力(思考力・表現力)を付けることができるか、教材としての価値を研究する。
 - ② 相手や目的、場面や状況に応じて、ふさわしい思考や表現の仕方を学習できるような単元の構成、導入を工夫する。

主張点 1 説明的な文章を読む能力を身に付けさせるための知識及び技能の習得をめざして

1 学年の系統性を考えた説明的な文章を「読むこと」における知識及び技能について

第1学年及び第2学年 C 読むこと(1)目標

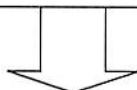
- (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。
(小学校学習指導要領解説国語編)

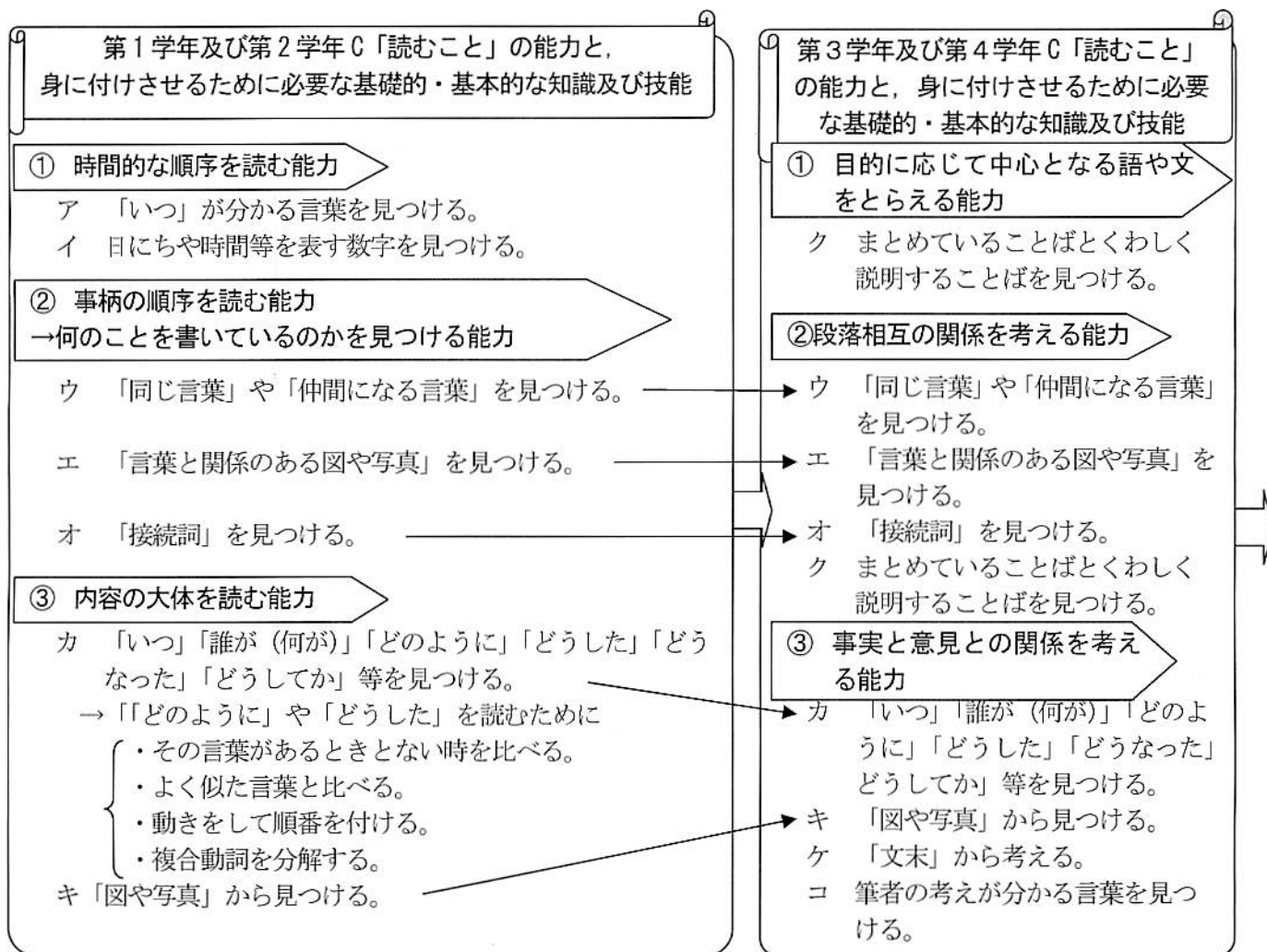
第3学年及び第4学年 C 読むこと(1)目標

- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。
(小学校学習指導要領解説国語編)

第1学年及び第2学年 C 読むこと (2) 内容 ①指導事項
イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。(小学校学習指導要領解説国語編)

第3学年及び第4学年 C 読むこと (2) 内容 ①指導事項
イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
(小学校学習指導要領解説国語編)





2 説明的な文章を読むコツの具体例



説明文を読むコツの掲示

説明的文章を読む能力を身に付けさせるために必要な知識及び技能を習得させるために、子どもたちにも分かりやすい言葉でコツとして段階を追って提示していく。コツを教師から一方的に提示するのではなく、初めは子どもたちと一っしょに文章を読みながら、提示したり、考えたりしていく。子どもたちが使った新しい読み方を価値付け、新しく追加していく。左の写真のように、教室に掲示したり、板書にどのコツを使って考えたかを残していったりしながら、子どもたちが自分でコツを活用できる場を毎時間設定した。この経験により、一人ひとりが文章に応じて、どのコツを使ったらよいか選択し、コツを使って自分の考えを持ち、友達考えのよさを認めながら吟味、検証し、よりよい考えへと高め合い、学び合っていく力が高まってくると考える。

本単元では、以下のように育てたい読む能力に応じて読み方のコツを提示した。

(1) 事柄の順序を考えながら内容の大体を読む能力を育てるために提示した読み方のコツ



知りたいことの答えを見つけるコツ

- ① 知りたいことと同じ言葉や仲間になる言葉を見つける。
→何回も使われているか、1回だけか。
- ② 知りたいことの写真や図から考える。

子どもたちに分かりやすい言葉で、何度でも使えるコツをいっしょに作っていきます。「コツを使うと分かった!」という経験が習得、活用へつながっていくと考えました。

説明文のべんきょうのコツ

- ① いつ「誰が（何が）」「どのように」「どうした」「どうなった」「どうしてか」を見つける。
- ② 「どのように」（どんな様子か）を考える。
 - ・音や様子を表す言葉を見つける。
 - ・動作をする。
 - ・順番をつける。
 - ・ことばのたし算を考える。
- ③ 写真と文をつないで考える。

① 習得に重点を置いた実践

様子を正しく読むために「ことばのたし算を考える」

こういう時は、ことばのたし算を考えてみてはどうか。木の幹をかじるところが「どのような様子か」分かるようになるよ。

「とびちり」は「とぶ」＋「ちる」だな。木のかわや木くずが「とぶ」だけでなく、「ちる」くらいすごいはやさなんだな。やっぱり、大工事なんだ。

「ことばのたし算を考える」と大工事の様子がよく分かったね。
説明文を読むときのコツとして使っていけそうだね。

木を運びながら泳ぐところからも、大工事と言うところが分かるかな。

どの説明文の勉強のコツが使えるかな。

「ことばのたし算を考える」コツを使えばいいな。「さしこんで」は「さす」＋「こむ」に分けられる。さすと比べるとすごさが分かるな。

前に作った「ことばのたし算を考える」というコツが自分でも使えたんだね、すごい！コツを使うとどんな様子が、大工事ということが分かるんだね。

どのような読み方が使えたのか、自己評価する場を設定する。自己評価することで、自分の読み方の傾向をつかみ、使える読み方を広げようとするにもつながる。ノートの記録や掲示物、チェックカード等を使って自己評価するようにしている。

学年や児童の実態に応じて、自己評価用紙の形態や内容を工夫していく。低学年から学年の系統性を考え、具体的な読み方を提示し、子どもたちにどのような読み方をすれば読む力がつくか分かりやすく示している。

また、チェックカードの記入を見て、教師も子どもたちの読み方の傾向が把握でき、次時の指導や支援のあり方を見直すことにもつながっている。

国語	2年	名前	()
せつめい文のべんきょうのこつ			
なかまを見つける	くらべる		
なん回もつかわれていることばを見つける。	なかにまになることばを見つける。	文のはじめやおわりのことばを見つける。	つないでいることばを見つける。
		前やうしろの文と前やうしろのだんらくと	あることばが あるときとないとき
			よくにたことばと
			しやしんと文 しやしんとしやしん
			ともだちの考えと
		文と だんら	しやしん

できたところを○で囲む。○で囲むことによって、教師も子どもたちも読み方の傾向が分かり、子どもたちは次時のめあてを持つことができる。教師は指導や支援のあり方を見直すことにも役立ち、多様な読み方のコツを使うことができるようになってくる。

[illegible]

使っている読み方のコツが偏っている時は、多様な読み方ができるように助言し、読み方の課題を持たせる。

主張点2 話す能力、聞く能力を身に付けさせるための知識及び技能の習得をめざして

1 学年の系統性を考えた「話すこと・聞くこと」における知識及び技能について

第1学年及び第2学年A話すこと・聞くこと(1)目標

- (1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

(小学校学習指導要領解説国語編)

第3学年及び第4学年C話すこと・聞くこと(1)目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

(小学校学習指導要領解説国語編)

第1学年及び第2学年A話すこと・聞くこと(2)内容①指導事項

エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。

オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。
(小学校学習指導要領解説国語編)

第3学年及び第4学年C話すこと・聞くこと(2)内容①指導事項

エ 話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。
(小学校学習指導要領解説国語編)

第1学年及び第2学年A育てたい「話すこと・聞くこと」の能力と、身に付けさせるために必要な基礎的・基本的な知識及び技能

① 大事なことを落とさないように聞く能力

- ア 相手が言ったことを繰り返して話す。
イ 相手が言ったことについて、分からないことは質問する。
ウ 話している事柄を数える。
エ 相手が知らせたいことは何かはつきりさせる。

② 互いの話を集中して聞く能力

- オ 相手の考えのよさを見つける。
カ 話し手の方に顔を向ける。
キ うなずきながら聞く。

③ 話題に沿って話し合う能力

- ク 相手の考えと自分の考えの異同を見つける。
ケ 相手の言ったことについて話す。
コ 自分の考えを伝えるために適切な接続詞や言葉を使う。
サ 相手の言ったことに共感する言い方をする。
シ 相手の言ったことについて感想を持つ。

(「合意形成」 小学校学習指導要領解説国語編 P29)

第3学年及び第4学年A育てたい「話すこと・聞くこと」の能力と、身に付けさせるために必要な基礎的・基本的な知識及び技能

① 話の中心に気をつけて聞く能力

- ス 相手が言いたいことをもっと詳しくするために質問する。
セ 相手が言いたいことや伝えたいことは何か中心を考える。

② 質問をしたり感想を述べたりする能力

- ソ 相手が知らせたいことは何か、中心を考えて自分が聞きたいことは何かはつきりさせる。
タ 相手の言ったことについて自分のことと比べて感想を持つ。

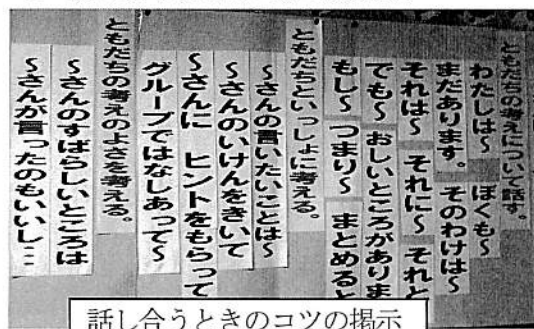
③ 互いの考えの共通点や相違点を考える能力

- チ 相手の考えと自分の考えとの共通点や相違点を見つける。

④ 司会や提案の役割を果たしながら進行に沿って話し合う能力

- ケ、コ、サ、シ、チ
ツ 司会や提案の仕方が分かる。
テ 相違点のわけを考える。
ト 感想と意見の違いが分かる。

2 話し合うときのコツの具体例



「話すこと・聞くこと」の知識及び技能を習得させるために、子どもたちにも分かりやすく、具体的で多様な話し合い方をコツとして提示していく。このコツは、初めは、子どもたちといっしょにグループまたは全体の場で話し合いをしながら提示したり、考えたりしていく。子どもたちから新しい話し合い方やコツが出てきたときは価値付け、新しく追加していく。左の写真のように教室に掲示したり、板書にどのコツを使って話し合ったか残していったりしながら、毎時間習得、活用を繰り返すことによって、一人ひとりが話し合いに応じて、どのコツを使ったらよいか選

押し、コツを使って友達の考えを理解し、そのよさを認めながら話し合い、学び合っていく力が高まってくると考える。

「話題に沿って話し合う能力」とは、相手の考えにかかわって自分の考えを話すだけでなく、互いの思いや考えを尊重しながら共感的に受け止める心も含まれている。つまり、話し合うときのコツを習得、活用することによって、共に人間的に育っていかうとする心を育てていくこと、さらには温かい人間関係作りもねらっている。

- (1) 大事なことを落とさないようにしながら集中して聞き、話題に沿って話し合う能力を育てるために提示した読み方のコツ



話し合うときのコツ

- ① 友だちの方を向いて、うなずきながら聞く。
- ② 友だちの言ったことを繰り返して話す。
- ③ 友だちの言ったことについて話す。
- ④ 友だちの分からないところをいっしょに考える。
- ⑤ 友だちの考えのよさを考える。

子どもたちに分かりやすい言葉で、何度でも使えるコツをいっしょに作っていきます。「コツを使うと自分の考えが分かりやすく伝えられた!」、「友だちの伝えたいことをいっしょに考えられた!」という経験が習得、活用へつながっていくと考えました。

- ## （２）話し合うときのコツの提示の実践例

- ### ① 習得に重点を置いた実践

話し合うときのコツ

友だちの言ったことについて話す。



ぼくは、「つみ上げる」という言葉を見つけました。たし算のことばで様子
 を考えると、「積む」＋「上げる」だから小枝をすごく高く積むので…

〇〇さん



私は家族のビーバーたちから考えました。みんなで協力しているので…



ぼくは、「長いときには十五分も」という言葉を見つけました。「も」があるときとない時を考えました。…

ちょっと待って。〇〇さんは、何の事について話していたのかな。



〇〇さんは「つみ上げて」という言葉から、たし算の言葉で考えたことを話していました。



そうだね。いろいろな考えを言いたいけれど、〇〇さんと同じ「つみ上げて」という言葉から考えたことや、同じ「たし算の言葉」から様子を考えた人が先に続いて言うと、話があちこちに飛ばずに大工事の様子もよく話し合えるね。「友だちの言ったことについて話す」ことは話し合いのコツとして使っていけそうだね。

4 子どもが話し合いの仕方のコツを意識して伸びが実感できる自己評価

どのような話し方、聞き方が使えたのか、自己評価する場を設定する。自己評価することで、自分の話し方、聞き方、かかわり方の傾向をつかみ、使える話し方、聞き方、かかわり方を広げようとするにもつながる。掲示物、チェックカード等を使って自己評価するようにしている。

学年や児童の実態に応じて、チェックカードの形態や内容を工夫していく。低学年から学年の系統性を考え、具体的な話し方、聞き方を提示し、子どもたちにどのような話し方、聞き方をすれば力がつくか分かりやすくしている。

また、チェックカードの記入を見て、教師も子どもたちの話し方、聞き方、かかわり方の傾向を把握でき、次時の指導や支援のあり方を見直すことにもつながっている。

【話し合いの仕方のチェックカード（低学年）】

話し合うときのこつ				
月	日	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。
友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。

【話し合いの仕方のチェックカード（中学年）】

話し合うときのこつ				
月	日	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。
友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。	友だちの考えたところを、自分の考えたところと比べて、共通点などを書いた。

中学年からまとめた表現にしていく。

できたところを○で囲む。○で囲むことによって、教師も子どもたちも聞き方、話し方の傾向が分かり、子どもたちは次時のめあてを持つことができる。教師は指導や支援のあり方を見直すことにも役立ち、多様な読み方のコツを使うことができるようになってくる。

主張点3 目的意識を持った言語活動の単元化

1 目的意識を持たせる工夫

児童の日常生活において、言語活動は何らかの生活目的を達成するために行われており、児童がどういう目的のために言語活動をするのかという意識を持ち、その目的にかなった言語活動ができるようにすることが大切である。（小学校学習指導要領解説 総則）

目的意識を持った言語活動ができるように、本単元では、導入で題名やP29の写真から思ったことや感じたことを話し合う場を持つ。【題名等をめぐっての話し合い例】

「工事」でなくて「大工事」と書いています。比べると「大」とついているのだから、ただの工事でなく、すごい工事なのかなと思います。

「工事」とはビルや建物をつくる時や道路や橋をつくる時に使います。ビーバーがする「大工事」とは何をつくるのか知りたいです。…

動物園で見たことがあるけれど、ビーバーは体の小さな動物なのに「大工事」をするなんてビーバーの体には何かすごい秘密があるのかなと不思議に思います。…

「ビーバーの大工事」って本当に大工事なのかな。大工事のすごさやビーバーの体の秘密が分かる場所が見つかるかな。「ビーバーの大工事」を読んで見つけたことを話し合おう。

2 言語活動を通して育てたい思考力、判断力、表現力

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動を充実すると共に、家庭との連携を取りながら、児童の学習習慣が確立するように配慮しなければならない。

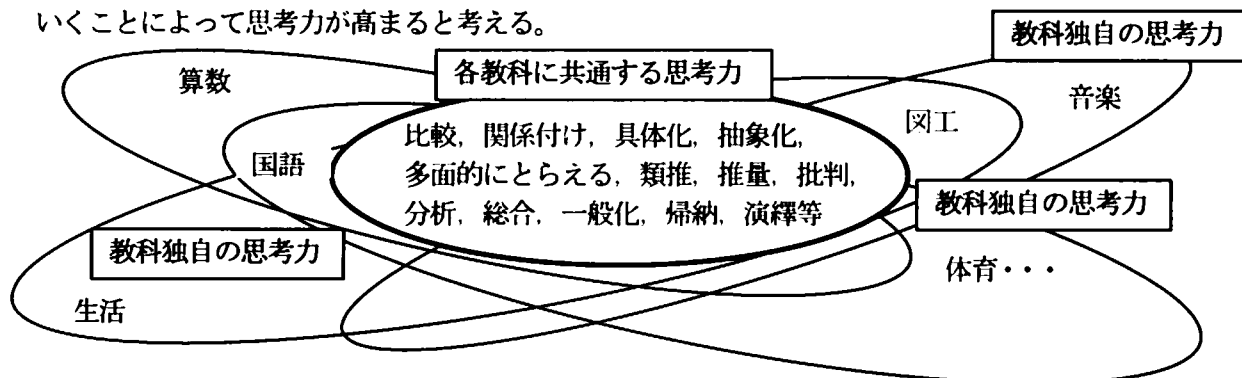
(小学校学習指導要領解説 総則)

言語活動を充実させるためには、基礎的・基本的な知識及び技能を習得、活用するために、言語活動を通して育てたい思考力、判断力、表現力を明らかにする必要がある。思考力、表現力について以下のようにとらえて言語活動を行って行く。尚、判断力については、どの思考力を使うか比べて、選択する力と考える。

(1) 他教科等と関連した思考力、表現力

<思考力>

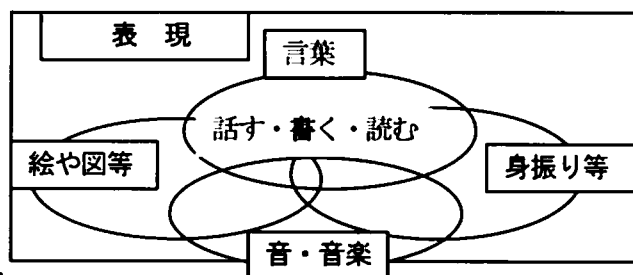
思考力には様々なものがあり、各教科・道徳等に共通するものと、国語科独自のものとがある。各教科・道徳等を関連させながら、単元と1時間の指導で育てる思考力をはっきりさせて指導計画を立てて実践していくことによって思考力が高まると考える。



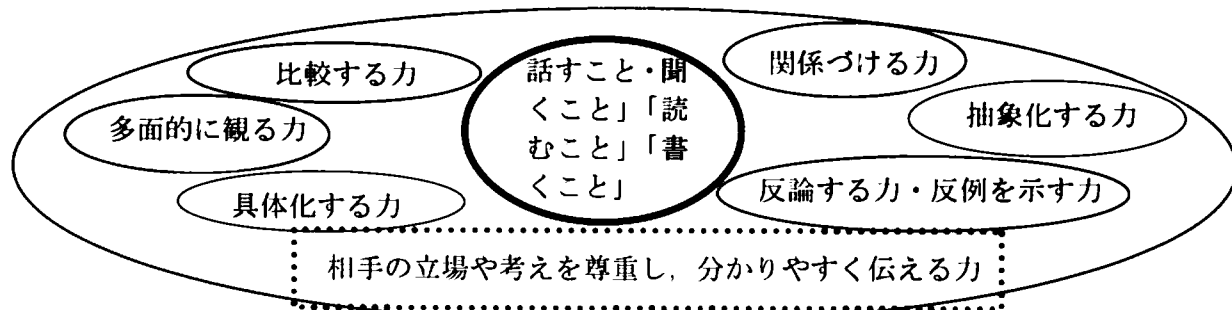
<表現力>

言葉に関する表現は、言葉だけで表現する場合だけでなく、言葉と絵や図等で表現する場合、言葉と身振り等とを複合して表現する場合など、多様な表現の仕方がある。どのような表現をすれば自分にも相手にも分かりやすい具体例を子どもたちに示しながら、多様な表現の仕方が身につくよう指導を継続する。(参考文献「誰もががつけたい説明力」井上一郎 明治図書)

- ① 言葉の使い方
- ② 文や文章の書き方
- ③ 図解の仕方
- ④ グラフや表の使い方
- ⑤ 演示や実演、映像等の提示の仕方
- ⑥ 相手が納得したかの確認の仕方



(2) 国語科で特に育てたい思考力・表現力



<思考力・判断力>

- ・ 比較する力 … 異同、共通点、相違点、類似点等を見つける。
- ・ 関係付ける力 … 言葉と言葉、言葉と図や写真等、前後の場面や段落等
- ・ 具体化する力 … 想像する視点を具体化、分かりやすい言葉での説明、例や用例を挙げる等
- ・ 抽象化する力 … 共通の要素を見つける。
- ・ 多面的に観る力… 違う面や違う立場から考える。
- ・ 反論する力・反例を示す力 … 反対の見方や立場から考える。

<表現力>

『相手の立場や考えを尊重し、分かりやすく伝える力』

- ・ 相手に分かりやすい言葉を使う。
- ・ 相手に分かりやすい順番で伝える。
- ・ 相手に分かりやすい図解や資料を工夫する。
- ・ 相手が分かったかどうか確認し、必要に応じて、相手に合わせて表現を変える。
- ・ 相手が知りたがっていることに対して、適切に伝える。

(3) 2年国語科において特に育てたい思考力、表現力

<思考力・判断力>

- ・ 比較する力…異同を見つける
- ・ 関係付ける力…言葉と言葉、言葉と図や写真等、前後の段落、時間的な順序や事柄の順序等
- ・ 具体化する力…想像する観点の具体化、分かりやすい言葉での説明

<表現力>

- ・ 相手に分かりやすい言葉や文、図、写真、身振り等を使う。
- ・ 相手に分かりやすい順番で伝える。
- ・ 相手が分かったかどうか確認し、必要に応じて相手に合わせて表現を変える。



特に本単元では下のような思考力、判断力、表現力を育成することをねらい、思考・判断の仕方、表現の仕方のコツを提示していく。

<本単元で育成したい思考力、判断力、表現力>

- 言葉と言葉、写真と言葉、写真と写真を比較したり関係付けたり具体化したりする力
- 大工事の行程を比較したり関係付けたりする力
- 言葉や文について感じたことや経験したこと、思ったことや考えたことなどを関係付けたりて分かりやすく伝える力
- 相手の考えとの異同を考えながら相手が分かったかどうか確認しながら、相手に分かりやすく伝える力
- 大事な言葉や文を見つけ、問いと答えを関係付けて読む力

比べるコツ・つなぐコツ・くわしくするコツ

- ① よく似た言葉と比べる。
- ② 言葉があるときとないときを比べる。
- ③ 言葉と言葉を比べる（つなぐ）。
- ④ 言葉と写真を比べる（つなぐ）。
- ⑤ 写真と写真を比べる（つなぐ）。
- ⑥ 前や後ろの段落と比べる（つなぐ）。
- ⑦ 自分が見たことやしたことと比べる（つなぐ）。

2 「クイズ作り」という言語活動

クイズを作るという言語活動は、「読むこと」の指導事項 カ の力を付けることも目的としている。クイズを作るため、伝えたいことに合った疑問詞を選択できるように、はてなを作るコツを提示した。

第1学年及び第2学年 C 読むこと (2) 内容

①指導事項 (小学校学習指導要領解説国語編)

カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

第1学年及び第2学年C「読むこと」の能力と、身に付けさせるために必要な基礎的・基本的な知識及び技能

本や文章を選んで読む力

- ア 知りたいことと同じ題やよく似た題を見つける。
- イ 知りたいことと同じ写真、絵やよく似た写真や絵を見つける。
- ウ 知りたいことと同じ言葉やよく似た言葉を見つける。



はてな?を作るコツの揭示

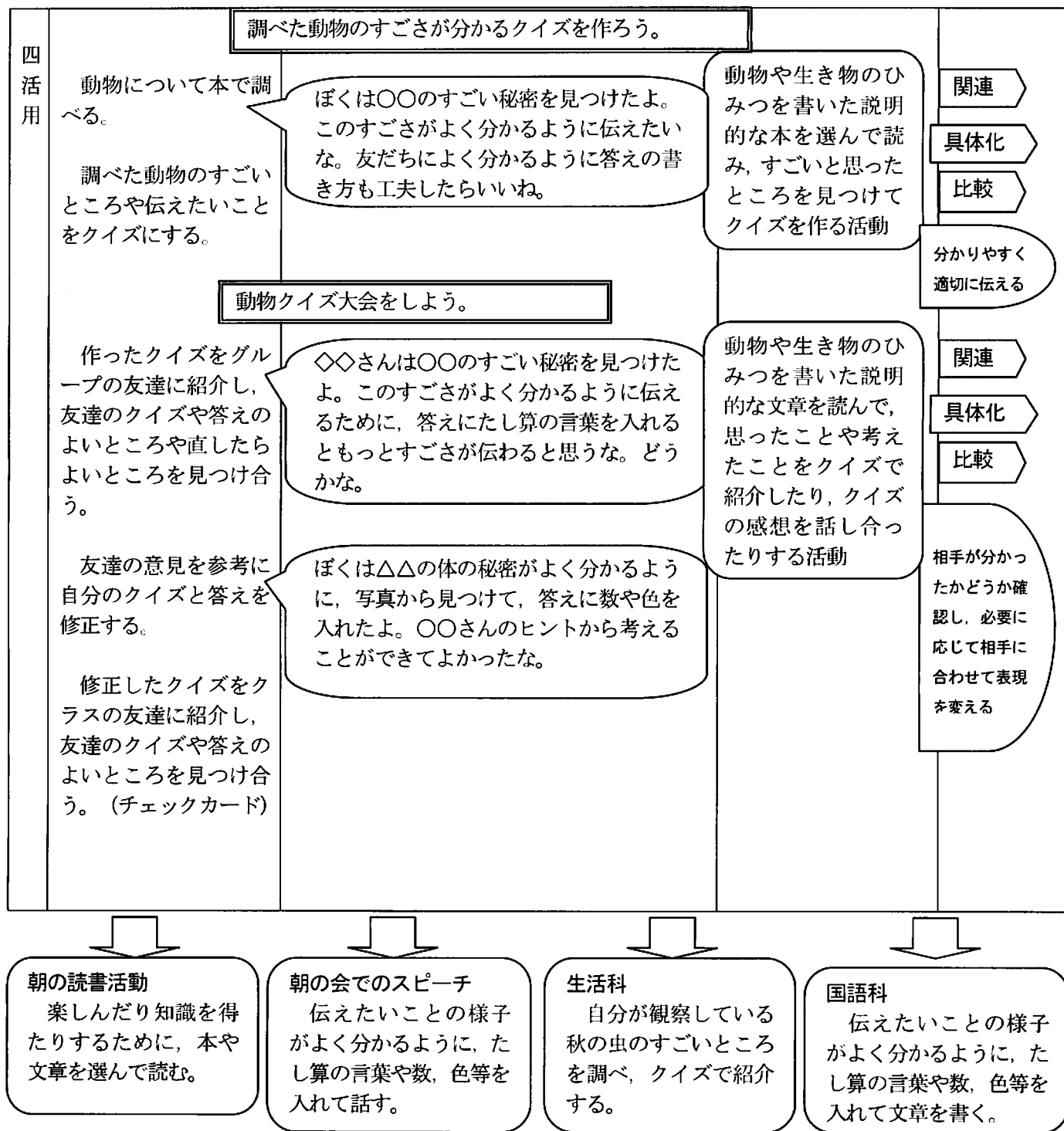
はてなを作るコツ

- ① ぴったりなはてなの言葉をつける。
「いつ」(時間)
「どこで」「どこに」(場所)
「だれが」「だれと」(人物)
「どんな」(様子)
「どのように」(順序・様子)
「なぜ」「どうして」(理由)
「どれくらい」(量)
- ② 題から考える。
- ③ 比べる。

【資料1】 単元「動物のひみつをみんなでさぐろう」構成例

次	学習活動	子どもの反応例	言語活動	育てる思考力, 判断力, 表現力
一・ 単 元 導 入	題名やP29の写真を 見て、書かれている内 容を予想したり、知り たいことを話し合っ たりする。	「大工事」と「工事」と比べると、す ごく大きな、大変な工事だということが分 かるよ。本当にビーバーのダムや巣作り は「大工事」なのかな。	題名から分かったこ とや不思議に思っ たこと等自分の考えや 感想を話し合う活動	比較 関連 分かりやす く伝える
二・ 習 得	「ビーバーの大工 事」では、どこに、何 が書かれているのか、 大まかに読み取り、題 を付ける。	どんなすごいところが、書かれているのか な。3つのまとまりに分けられるよ。 ① 木をかじって川に運ぶビーバー ② ダムを作るビーバー ③ 水の中に巣を作るビーバー	大まかに読み取り、 すごいところを見つ け、考えや感想を話 し合う活動	関連 分かりやす く適切に伝える
	まとまりごとにどん な大工事なのか見つけ る。 ・「木をかじるところ」 はどんな大工 事なのか。	ガリガリ、ガリガリ ○ カリカリ、カリカリと比べる。 ○ 1回の時と2回を比べる。 木のかわや木くずがとびちり ○ たし算の言葉 とびちる＝とぶ＋ちる。 ○ 写真と結ぶ。 ドシーン ○ ドシン、トシーンと比べる。 五十センチメートルいじょうも ○ 実際に幹の周りの輪を作る。 ○ 「も」がある時とない時を比べる。	内容を読み、大工事 だと思うすごいと ころを見つけて、ど んな様子なのか、考 えや感想を話し合 う活動	比較 関連 具体化 分かりやす く適切に伝える
	・「木をかじるビーバ ー」はどんなすご いところがあるの か。	上あごのはを…下あごのするどいはで… ○ 動作化する。 まるで、大工さんのつかうのみのよう ○ 実物が写真を提示してイメージを持つ。 →批評読み…「写真があったらよく分かる。」 ○ 「まるで消しゴムのよう」と比べる。 →形だけでなく使い方も似ているな。 ドシーン、ドシーン ○ 1回と2回を比べる。 ○ 「あちらでもこちらでも」「つぎつぎに」 という言葉と結ぶ。	内容を読み、大工事 だと思うすごいと ころを見つけて、ど んな様子なのか、考 えや感想を話し合 う活動	具体化 比較 関連 分かりやす く適切に伝える
	・「木を運ぶところ」 はどんな大工事な のか。	切りたおした木を…しっかり… ○ たし算の言葉 切り倒す＝切る＋倒す ○ 動作化し、分割して順番をつける。 ずるずると ○ するすると比べる。 くわえたまま ○ 動作化。「～ながら…」に言い換える。 ぐいぐい ○ くいくいと比べる。 オールのような形 ○ オールの実物が写真と比べる。 ○ 「しゃもじのような形」と比べる。…	内容を読み、大工事 だと思うすごいと ころを見つけて、ど んな様子なのか、考 えや感想を話し合 う活動	具体化 比較 分かりやす く適切に伝える 比較

三 活用の導入



このように言語活動の単元化を考える時には、教材を研究し、単元のどこで、どのように思考力、表現力を付けていくのか、単元を通して、1時間1時間付けていく力を明確に持つておく必要があると考える。

また、習得、活用した基礎的・基本的な知識及び技能が実の場でも生かせるように、他教科等との関連も意図的に構成して行くとより効果的に力が付いてくると考える。

【資料2】 「クイズ」づくりの演習

のひみつクイズ	だい○もん	○もんだい	○ヒント	○本のだい名	「」
	名前				

のひみつクイズ 答え	○答え	ページ 行目に書いてあるよ。	○クイズを作って一言

のひみつクイズ かい答用紙

○ 答える人

名 前

○ クイズのばんごう

さんのだい

もん

○ 答え

○ 本のだい名

ページ

○ 答えた人

名 前

○ クイズのばんごう

さんのだい

もん

○ チェックよくできていた◎ できていた○ もう少し△

クイズのことばがつかえていましたか？

いつ、どこに、だれが、どんな、
どれくらい、どのように、なぜ、どうして

もんだいと答えが、ぴったり合っていましたか？

わかりやすいヒントが書けていましたか？

- ・ 答えを考えるためのヒント
- ・ 答えを見つけるためのヒント

すごさがつたわるように、分かりやすく答えが書けて
いましたか？

- ・ 「数」が書けていた
- ・ 「音」が書けていた
- ・ 「まるで」のようです
- ・ 「のような形」が書けていた
- ・ 「じゅんじょ」①②③が書けていた

○ かんそう はじめて知ったこと・もっと知りたいこと

のひみつクイズ チェックカード

クイズを作る前にどんなことに気をつけたらよいか、今までの学習から考えて「コツ」を話し合しましょう。「コツ」を確認し、チェックカードに記入すると、子どもたち自身が気をつけながら意欲的にクイズ作りができます。

